

連翼ひきよく
連理ついで

花はな廻まわ志し満まん基き臺たい二に編へん卷くわん之の中ちゆう

東都

松亭金水編次

第九回

あふふとしままむらう豊とよ島しま島ま居むるる繁うき結むすののおまちちのの復たがひののあまききははふふままるる

ししくくかかままちちがが父ちちのの志し満まんをを祀まつししめめ胸むねむむややくくややとと業ごう成なり満まん

ししくくそそのの日ひくくままささぐぐいい家いえよよかかくくままささががあありり和わくく一ひとののままささににゆゆくくはは

ひひままりりををああららうう明あきらことこと言ことははささるるががらら

石いしとと礎いし一ひととと志し満まんののててんんくく入いりてていいくくををままつつてて遊あそびびししよよののままををままんんじじににししててううのの

ひあくニん中

ちがやアひやアひ身をほろろ糸人ヨれ雑までもおのかけやア

糸人の大目が大そろよま濃まくわゆるあどトあ射身もる

きふ一人で志れ込こめちつつけくく隙つああより法は

むづと概くこ一消け房ふを大痴ちくくししままそそああままつつけけるる持も

出いくくるる酒し瓶びんとと好こ獨どややががてて茶ち茶ち家け人にんほほぐぐ酒し瓶びん自じ志しを

由ゆつつるるぞぞ勝の手て一いききつつけけててニにッッッッッッ酒し瓶びんののかかざざり

茶ち茶ち酒しののままこころろ一いてて蒲ふ索さく引ひかかざざりり茶ち後ごももああままびび依い一い

ちちのの一いつつのの両りやう方ほうとと入い入いぎぎののまま初はつくくそそままよりより七しち八はち

Handwritten text on the right edge of the page, likely bleed-through from the reverse side.

祝^{のぞ}きし^とに^とま^とぎ^とづ^とに^と白^と戸^とま^とて^と人^{ひと}由^よき^とに^とび^とる^と容^{よう}子^こに^と不^ふ審^{しん}

さ^とら^とひ^と引^ひ越^こえ^とる^とめ^との^とと^と働^{はたら}か^とる^と人^{ひと}の^と間^まに^とは^とま^とぎ^と如^{ごと}此^{ごと}に^と

る^との^とと^とら^とぬ^とに^とよ^とり^とは^とま^とぎ^とさ^とら^とぬ^とお^と母^{はは}お^とも^と身^み小^こま^とむ^とを^と

う^とり^と持^{もち}ら^とう^とく^と急^{いそ}ぎ^とで^と家^{いえ}こ^とら^とか^とり^とぬ^と人^{ひと}が^とま^とを^と傷^やむ^との^と昔^{むかし}

性^{せい}質^{しつ}知^ちら^とぬ^と一^とめ^とも^とま^とぎ^とが^と悔^くし^とい^とふ^と死^しん^とど^とめ^との^とう^とと^とな^とされ^と

た^とま^とく^と美^み由^ゆけ^とは^とな^とと^と急^{いそ}ぎ^とに^とせ^とぬ^とう^と急^{いそ}ぎ^とぬ^とら^とち^とと^と後^ごに^とま^とぎ^と

性^{せい}質^{しつ}知^ちら^とぬ^と一^とめ^とも^とま^とぎ^とが^と悔^くし^とい^とふ^と死^しん^とど^とめ^との^とう^とと^とな^とされ^と

性^{せい}質^{しつ}知^ちら^とぬ^と一^とめ^とも^とま^とぎ^とが^と悔^くし^とい^とふ^と死^しん^とど^とめ^との^とう^とと^とな^とされ^と

こゝろへいへい

あゝ^{あゝ} 担^{にん}船^{ぶね} 移^{うつ}が^が 引^ひの^の 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る

さ^さ 中^{ちゆう} へ^へ 寄^よる^る と^と 登^{のぼ}る^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る

く^く コウ^{こう} お^お 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る

ら^ら ぶ^ぶ ヨト^{よと} 紙^{かみ} 入^い り^り 百^{ひゃく} 匹^{びつ} 出^で せ^せ 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る

あ^あ り^り 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る

者^{もの} へ^へ サ^さ へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る

御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る

より^{より} 舟^{ふね} の^の 後^{のち} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る 御^{おん} 舟^{ふね} へ^へ 寄^よる^る

おはようございます 諸へ 兜まりの友根でもあつた入る
 とうとうおはようございます 目外情んど一併にございまして
 のうぬお徳も 兜まを長いぢやう 終入り 吉方何之
 おはようさんののりく 諸へ とうよ 勢も ころく びく 僂僂
 まるの由可おらうらうら 実の 我擲して 居る げん
 とう おはよう とう おはよう とう 擲 とう 由ら 僂
 とう おはよう 終入り 吉方 とう おはよう とう おはよう とう
 由る 子が 強へ 子が 稚女 由 ひさし のので 笑 施す

へ
 とう
 とう
 とう

とう



おきく

おきく

おきく

おきく

おきく

おきく



酒肉小僧の癖とむすぶ
奸夫膠漆の契とむすぶ

酒肉

酒肉小僧の癖とむすぶ

ともや と 年が とし りんぞ りんぞ 織子 おりこ 彩由 いろゆ ちまんの ちまんの カチ カチ
 ぞ ぞ 目 め 始 はじめ ち ち ち ち の の 亭 てい 抱 いだ かん かん あ あ さ さ 一 一 界 かい
 の の づ づ 目 め り り り り の の お お ち ち の の 歌 うた 妓 ぎ 子 こ ち ち の の の の の の の の
 ひ ひ よ よ う う と と 一 一 と と 強 つよ 子 こ の の 出 い 金 かね と と も も の の 物 もの を を も も る る 一 一 ち ち ね ね 一 一
 と と 酒 さけ の の 酔 よ ち ち 入 い り り ち ち の の 一 一 碑 いし 一 一 ち ち 集 あつ め め ぐ ぐ と と 針 はり 渡 わた る る 一 一 碑 いし
 こ こ あり あり 若 わか 死 し サ サ 目 め 始 はじめ ち ち 何 なに 年 ねん の の 彩 いろ 由 ゆ ち ち ま ま の の 一 一 界 かい
 一 一 つ つ お お あ あ ぐ ぐ ん ん る る 一 一 界 かい

うたへいり

一

あまのりくまのりくまのりく
あまのりくまのりく
あまのりくまのりく
あまのりくまのりく
あまのりくまのりく
あまのりくまのりく
あまのりくまのりく
あまのりくまのりく
あまのりくまのりく
あまのりくまのりく

よ下 竈竈婆 泣ちが 漆の ちて下 身成 ちが せん ちが ち

せが ちてあまのりくまのりく 細 終てあまのりく 酒 ちてあまのりくまのりく ち

と ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく

て 降ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく

まのりくまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく

ちのりくまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく

傘が 一本 ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく

ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく ちてあまのりくまのりく

さくらさくら寝の夜はさくらさくらさくら

長ながくくあつたあつたららぬぬででどどぞぞいいままんんヨヨトトささららつつととままりりし

情なさけのの目めめめとと流ながれれるる研けんををよよここししててささららぶぶそそののととしして

ををかかききよよううききななららししかかるるああららじじととすすままじじららり

ととかかくくささららるるふふ初はつめめののああけけてて情なさけのの考ねが遠とほくくああららじじととすすままじじららり

酒さけささららぬぬももららししけけれればばおおききりりととああららじじととすすままじじららり

引ひききいいぬぬみみ布ぬい満みちちよよ一ひとつつ寝ね二ふたつつちちううくくぶぶ一ひとつつ枕まくら方かたにに二ふた枚まい

屢しばしば風かぜのの掃はらつつぶぶみみちちををままれれぬぬ縁えんののままよよめめとといいひひををままよよ推おしせせとと

まで夢^うに^うて^うく^うー^う おぢ^{おぢ}が^が方^{かた}へ^へと^とさ^さし^しび^びり^りと^とさ^さら^らふ^ふ 園^{えん}の^の所^{ところ}
 あら^あら^らん^んよう^{よう}に^にま^まま^まと^との^の顔^{かほ}を^を今^{いま}も^もと^とけ^けひ^ひま^ま分^{ぶん}の^の引^ひ
 負^おか^かと^とま^まり^りー^ーぶ^ぶ重^{おも}敷^ぢの^のり^りの^のこれ^{これ}を^を礼^{れい}一^{いつ}き^きび^びー^ーま^まに^に罷^まり^り
 も^も新^{あたら}ま^まり^りと^とび^びと^と千^ち毫^をも^も殿^{どの}格^{かく}別^{べつ}の^の仁^に意^いと^との^のり^りに^に遊^{あそ}ぶ^ぶ
 せ^せい^いと^とう^うけ^けら^らぬ^ぬ強^こさ^さの^の今^{いま}も^もさ^さし^しふ^ふ方^{かた}と^とあ^あら^らま^ます^すに^にあ^あ
 も^もみ^みけ^けれ^れば^ばお^おぢ^ぢが^が方^{かた}に^に来^きり^り今^{いま}も^も客^{きやく}と^とな^なり^りあ^あら^らま^ます^すに^にあ^あ
 若^{わか}く^くは^はじ^じり^り強^こさ^さが^が弱^よさ^さに^に弱^よさ^さあ^あら^らま^ます^すに^にあ^あら^らま^ます^すに^にあ^あら^らま^ます^す
 心^こも^もほ^ほろ^ろと^とび^びと^と強^こさ^さが^が弱^よさ^さに^に弱^よさ^さあ^あら^らま^ます^すに^にあ^あら^らま^ます^すに^にあ^あら^らま^ます^す

うきと

遊女もいふよこなひみぢも今もあふくまへん

よもぐさくおまひかきしなみ形もあひ目伝送りけり

他者曰近き曾あまきくごひの女世間ふまへん

多岐氏のいへる男もさ湯しナル金銭を食

とりその書ふとたふ押入るる再び願ふると

あし金く遊女あまの牙あへあるととらるるも

遊女あまのいさよひの成始より弟あしと

あしづかひあまの鼻も淡くさるるあまめりく

へちま

二

徒^つづ^こし^こ思^えひ^えみ^えた^えふ^えの^えり^えと^え親^おの^お心^こ保^たへ^たる^たも^もう^うち^ち集^あは^はれ^れる^る
 く^く解^とく^とる^るし^しけ^けら^らん^んを^を代^た小^こ六^{ろく}も^も推^おし^しや^やう^う尋^たず^ずす^す
 め^めく^く高^{たか}く^くの^のそ^その^のあ^あゆ^ゆま^ま一^一殊^とあ^あら^らじ^じの^のみ^み知^しら^らず^ず
 貞^まじ^じら^らず^ずある^るの^のめ^めの^のま^まれ^れバ^バ筆^ひ成^じゆ^ゆと^と一^一つ^つら^らえ^える^る家^か名^な
 由^ゆち^ちが^がく^くお^お續^つき^きせ^せん^んと^と解^とく^くる^る一^一決^けつ^つ一^一つ^つら^らえ^える^る小^こ六^{ろく}
 その^{その}よ^よし^しを^を結^むぶ^ぶし^しけ^けら^らん^ん始^はめ^めの^の解^とく^くる^る一^一つ^つら^らえ^える^る
 と^とら^らの^のよ^よ解^とく^くる^るが^がら^らく^く中^{ちゆう}ぐ^ぐて^て紙^し屋^やの^の家^か名^なと^とつ^つら^らえ^える^る
 由^ゆ治^ちま^ま信^{しん}と^とわ^わら^らぬ^ぬと^とあ^あら^らじ^じの^のみ^み知^しら^らず^ずの^のあ^あら^らじ^じ

八十一

一

お猿さる由よし今いまのころ後悔こうごうすることしつふゆしときつ四八しやうはちのて手紙てがみまら

なまことめんどもこゝろ子分こぶん子分こぶんといふなれつるどう破屋やぶやのゆ多

くさくさ容易やすみあまのて手紙てがみ切きぎりくさ免まやり切きころかのありのしり

けちらちぞち活くわくきき活くわくあまのて手紙てがみままといふ足あしままがの四八しやうはちといふ絆はなうら

まままま情なさけゆゆあまくく念ねんゆゆあまつつといふといふといふ活くわくきき活くわくあまのて手紙てがみままひひううえ

ままれれままのの後ごのの四八しやうはちがのままののといふあまつつゆゆあまののままののてて手紙てがみまませせと

ららののゆゆののままのの始はじめめめののままのの今いま私わたしのの四八しやうはちをを情なさけ入いるる手

ととままののししのの中なかののああののままののけけけけのの紙屋しやののままのの人ひと活くわくきき活くわくあまののままのの手

とらぬ海く 別條二世すてかひくの 約本せくとすく
 四八らゆく 聖らふ由して 聖号二人よ 愧成あてて 腹成
 愚んと一月子分の 破産戸に五人を 結ぶひて 技揚るんを
 彼方此方と 雑細な一 美や 紙治の 来るてこのやと 結本
 の人よ 因成らざる ありて 六 寄る 取 治 書 読ハ 少一の 同
 今月もお 賤が 旁へ 初んと 技揚へ 来るか 望ける 向
 よりしと くらめ 一 氣の 男は 人 来るか くる 術 成 由つて 人 建
 くくと 治 書 読 ぐ 例へ 来ること 見入 一 少く するく と 一 一 一 実 考 あり

八

一月



Handwritten text on the right edge of the page, possibly a title or reference number.

枝橋の辺子
紙治の危急

救得
古頭

おしん

167 11 11 11



張
治

11

きん

きん

きん

きんの仲人トモ多しきまらるる間廿五日あつた人あつた

ケ

ケ

ケ

ケ

ケ

今日自の報しきくちぞきうく情と心をつけやせし

ナ

ナ

ナ

ナ

ナ

ナ

我しそとらくこと物起へる逃くゆくお清の清き情と掛け

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

むと一おまふ多とんじ目よおまふまのこ物人報が是ふ

ム

ム

ム

ム

ム

ム

あり候るしけあるるのまの志事せんけほど生傍湯く

リ

リ

リ

リ

リ

リ

リ

候くさるるおりあつたあつた由備するまのまのせん

キ

キ

キ

キ

キ

キ

キ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

イ

イ

イ

イ

イ

イ

イ

まじりて身の徒傳とらとしり我お痛いたハせ元ホ日ひとくとく入いお

まじりて入い心こころなすくとも我わが心こころ知しりて居ゐる事ことの

宅うちハマま向むかふよ初はつ施せの世よ々々の雨あめ多おほく申まをすといお出いる

よへトて多おほく我わが引ひきこく程ほど不ふとま治ぢまはし由よし外ほかに治ぢまはし

且また彼かれ知し入い心こころ々々知しる由よし角かく由よしせと也やとる心こころ由よし々々入い

れべ仁に回くわい里り屋やとらふ船ふね宿しゆくまて家いえまの下した女によががひひり

尚さら書かきししくくままううししががここままととここてて致いた出で且また治ぢまはし浴ゆ衣いさらし

多くおほく契ちへへと治ぢまはし傳でんを傳でんまひ入い入いと痛いためまを

じざしくしりまきし終人 練よモウはまこしく昔方と志まきしヨウくろくカサヤ

あや久私のあつ物成ニッこまわッまの出しくかろ道そしく子こ盥へこ相あ

養の湯成汲で来るまのあ方ふこもやほ成お洗こいせ中あ

くろヨはハあキあカあキあのくあお喜あまあさんあるあああしくモウあくあまあをあ

くあまあるあまあもあおあもあるあのあくあらあふあ身あ成あつあたあまあしくあ物あ取あづあろあをあ

報あ遠あ振あうあさありあをありあ終あのあくあろあろあ終あくあグあイあヤあとあえあどあ月あ子あああまあひあ

中あしくあまあのあそあろあしくあおあまあるあくあまあくあろあくあまあのあまあをあしくあああ女あのあくあろあくあまあ

であアあろあ無あ親あかあてあ後あ列あのあ実あ小あわありあがあまあしくあどあろあくあらあふあ周あ

一
コ

うらぶりのまゝにちまひしむにたゞしむるにまゝにヨトまゝに終

しむるに終の少神下ハ舞のまゝにちまひしむるにたゞしむるに

舞のまゝにちまひしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるに

たゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるに

たゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるに

たゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるに

たゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるに

たゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるにたゞしむるに

い

い

松の旁うしそをちれでもまるまき及是よや却てわづら
まき たが これ うら
 とかこいまよ先刻の隆ぎで紙入を無毛一たへやち拾で
たへ たへ たへ たへ
 じがしほのほくはまめて大事なる忠告で由後三忠有る事形く
たへ たへ たへ たへ
 わり手合えが今ら世まぞりたへな合をかりあるようじがし
たへ たへ たへ たへ
 わりよサアたへち殆ろるまふトたへゆめくるるふ是非もも治無傍
たへ たへ たへ たへ
 ちがらたへちと取うたへ一たへキニたへち大まふ不碎またへこ
たへ たへ たへ たへ
 近よたへちよたへと情む人かたへわりまふたへめくたへ毛へたへ後たへはたへんたへ
たへ たへ たへ たへ
 物たへでもたへちたへちたへまたへせたへらたへ たへ入たへ陸たへ分たへ人たへ由たへゆたへりたへまたへんたへらたへまたへよたへ
たへ たへ たへ たへ

八はく二二二

三

ふかしまゝにけるおきへん今夜存己へんらきんく山後まう
とまかおのりありまゝにま 治 とうしんくまきねみり人相く
あふくふかしやせん 久くまあよくまかちりまじり 物くおく
まきねまことまかちりまあうと 物まぬし中ませんト 山あ
らまゝにらう海まてまきまじりく 雲かめがくしつひり

花廻志満甚二編卷之中終